

平成30年度公益財団法人網走監獄保存財団事業計画

基本方針

移築復原、再現構築合わせて25棟を展示する博物館網走監獄。うち、2件8棟が2016年に国の重要文化財に指定され、6棟が登録文化財として登録されております。

1980年に財団設立、1983年に博物館開館以来35年、ようやく施設も整いつつあります。しかしまだ完成形ではありません。変化を続ける博物館でありたいからです。

さらに重要文化財を未来に伝える使命と役割が加わりました。これから先も網走の歴史と文化の発信拠点として、資料が語る史実を多くの皆様に伝えていこうと、今日までの歩みを振り返り思いを新たに、「網走の宝」としてこの歴史遺産を未来永劫伝えていくために、文化財の保存管理に心を寄せ、全国から訪れて下さる皆様に、ご満足いただける施設造りに役職員一同取り組んでまいります。

以上の思いを胸に、次の事項を重点課題にして取り組んでまいります。

- 1 重要文化財の保存と価値観を高める活用を図る
- 2 充実した博物館の運営を図る
- 3 展示建造物の維持管理並びに館内の環境整備を図る
- 4 経営の安定を図るため入館者の確保と収益事業の強化

1 重要文化財の保存と価値を高める活用を図る

平成28年2月9日、博物館網走監獄において保存公開している建造物の2件8棟が国の重要文化財に指定され2年が経過し、重要文化財建造物を中心とした展示解説や見学ルートが整備されつつある現状において、来館者の博物館資料に対する認識も変わりつつあります。

これからも将来に渡り貴重な歴史的資産を守り続けるため、昨年より3ケ年に渡る網走監獄重要文化財耐震専門診断事業をはじめました。2年目にあたる本年は、構造診断並びに木造舎房耐震実験事業を行います。

また、今後重要文化財を長く維持するための耐震補強並びに防災管理も含めた保存活用 10 ケ年計画作成に着手してまいります。

- (1) 重要文化財建造物の二見ヶ岡農場は建築から 122 年が経過、その他重要文化財建造物も 100 年以上を経て、現在の建築基準法の基準を満たしておらず、地震をはじめとする自然災害に脆弱な構造であります。昨年より3年間をかけて耐震専門診断事業を始めました。昨年実施した構造調査、地盤調査に続き、木造舎房の構造実験を行い、その結果を補強案に繋いでまいります。3ケ年間の事業総額は、約6千2百万円です。今年度は2千8百万円の契約となっており、平成29年に国に申請しておりましたところ、平成 30 年1千4百万円補助の内示を頂いておりますので、重要文化財調査修復事業を主に手がけている文化財建造物保存技術協会と平成 30 年度契約を締結し実験を進めてまいります。
- (2) 重要文化財の維持にかかる防災体制の確立に取り組み、1月26日の重要文化財防火デーには、網走消防署、呼人消防団にご協力を仰ぎ、放水や避難誘導などの防災訓練を今年度も実施する予定です。引き続き職員には木造建造物を守る使命感を高めさせてまいります。また、防災設備の消火栓水抜きバルブ劣化による凍結のおそれがあるため、5ヶ所の更新を実施します。昨年より開始した重要文化財建造物周囲の除雪体制も整いつつあるため、冬期間の日常管理により一層注視し、木造腐朽を防ぎ長く保存できる管理体制を整えてまいります。

2 充実した博物館の運営を図る

平成30年度は、北海道改名 150 年、明治改元 150 年のメモリアルイヤーとなります。このメモリアルキーワードを活用し、入館者数を支えている当館の訪日外国人観光客にも理解できるような北海道、明治という大きなコンセプトから網走監獄に繋がる企画展を開催してまいります。

本年2月末現在で約 28,000 人の外国人の方々が来館され、有料入館者に占める割合が 12% になっています。日本訪問のリピーターが増えつつある現状において、単なる日本文化を見学するだけでなく、現地で味わう食、体験、希少な自然景観に遭遇する旅など、より深い感動を求めるニーズが高まっています。国際化の波と情報化時代に即した施設対応を続けていくことはゴールのない課題であり、充実した魅力ある博物館、ユニバーサルミュージアムを指標する当館においては、今後もソフトハード両面から整備を進めてまいります。

一方で、社会教育施設として、博物館を有効なツールとして活用いただけるような、網走市民が参加しやすい教育普及講座、学校利用による体験講座の更なる充実に取り組み、生涯学習の場として物や情報を通じてあらゆる層の人々が利用可能な体制を確立してまいります。

日本の博物館利用者総数は 3 億人に上るといわれる今日においても、過去の「物」を展示している施設という固定概念の方も多く、博物館を取り巻く環境の好転の兆しがないなか、私立博物館が運営する博物館として現状に留まることなくフレキシブルに変化し続ける博物館活動を展開するように努めます。

(1) 博物館社会教育事業 新年度の物作り体験講座は、野外博物館の特性を生かした講座と過去から伝わる文化伝承を体験する機会を提供する講座を企画しました。

春の体験講座「イタヤカエデでメープルシロップ作り」「オープン陶土でマグカップ作り」、夏休み「竹炭で風鈴作り」「大工の技 かぶと虫の小物入れ作り」、秋の体験講座「館内の植物を染めよう」「秋の夜長 革でブックカバー作り」、冬休み体験講座「ケシゴムでハンコ作り」「和紙で雛人形作り」など 8 講座を行い幅広い年代に楽しめるメニューで講座を進めます。

長期連続講座として、網走刑務所の特徴である農業を主体に農園体験ワークショップを 5 月から 11 月まで 8 講座開催し、種植え、肥料除草管理、収穫、調理加工実習と一連の作業で自給自足を実践させる目的で行います。今年は、小豆で鹿の子作り、サツマイモで 蒸しパン作り、トウモロコシ、ブロッコリー等を収穫、二見神社収穫祭へと繋げてまいります。

「看守長屋の年中行事」は、網走刑務所職員官舎を利用し、日本の古き伝統行事を博物館に来館される全ての人を対象に、体感してもらうものであり、春のお雛様祭り、五月端午の節句、夏の七夕、秋の十五夜、年末鏡餅作り、正月七草、鏡開き、節分行事と季節の移ろいと日本人の知恵と地方独自の風習を紹介するイベントとし誰でも気軽に参加できる形式で行います。この年中行事は、近年増加する外国人にも好評で、外国人が想像する日本らしさを演出できるよう企画してまいります。

ゴールデンウィーク、秋のシルバーウィークに実施するイベントは、家族で参加楽しめるように、子供の日にちなんだ餅つきとかしわ餅のプレゼント、竹とんぼ、竹笛、豆わらじ、桜コースター作り、重要文化財を巡るスタンプラリーなど、二見湖畔神社収穫祭には、網走刑務所三眺神輿を網走無窮会の皆様が担ぎ廻る演出や、懐かしい屋台、紙芝居などの上演、網走刑務所収穫祭を彷彿させるような、

明治の外役弁当、きなこ飯といった秘蔵監獄メニューを用意して提供します。

イベントを通じて、博物館網走監獄での思い出や体験が鮮明に残るような新しい発見や喚起を与え「博物館で未知との遭遇」をコンセプトに何れの教育普及講座も進めてまいります。

(2)企画展の開催 歴史館1階の企画展スペースにて、4月から7月末まで「矯正協会創立130周年記念・刑務所の近代化を支えた人々」移動展を開催します。矯正図書館が長年にわたり収集した貴重な資料をお借りして、明治150年の記念の年に、明治時代を迎え、牢屋敷から近代的な監獄へ、そして北海道に集治監の建設という行刑界にとって変革期となった明治、近代化を支えた人々に光を充てた企画展です。資料、蒔絵など全て拝借する展覧会であり移動展という形式をとり開催します。矯正協会創立130周年の節目の年に広報効果が見込めると全面的に協力していただけることになっております。期間中の博物館開館記念日には、記念講演会を開催します。当館参与で法学博士の高塩博教授に「江戸から明治へ刑罰の源流をさぐる」と題してご講演頂きます。

8月から12月までは、北海道150年に因んだ「松浦武四郎の探索した道の跡・北海道集治監が繋いだ道」展を開催します。北海道の名づけの親、松浦武四郎生誕200年の年、彼が探索した北海道、その地図を中心に、5つの集治監が科せられた道路開削724キロメートルが現在の国道とどのようにリンクしているか紹介する企画展です。当館の収蔵資料には限りがあるため、他館の資料を紹介する移動展は、博物館ネットワークを活用し、誰にも等しく文化を享受する機会を提供することは、博物館の役割でもあり、今後も積極的に行っていきたくと 考えております。

(3)博物館網走監獄友の会

友の会は、監獄の歴史に興味のある方、並びに博物館を支えるサポーターとして10年前から会員を募り、現在団体会員10団体、個人会員45名が入会されています。新年度も引き続き、博物館でのボランティア活動を通じて生涯学習を实践する場所として、会員それぞれの得意分野を活用し、博物館展示解説活動、イベントスタッフ、体験講座講師として支援を頂きます。また、中央道路開削慰霊碑の清掃作業、網走刑務所三眺山ハイキング、企画展解説会、学習会などの実施、本年は友の会発足10周年を記念しバス研修旅行に函館市を訪れ、函館の重要文化財建造物視察やボランティアによる解説活動にふれ、会員各自のレベルアップを目標に、研修旅行を7月に実施します。

(4)多言語化事業

訪日外国人入館者数が年間30,000人を超える現状において、日本人来館者と同様に博物館の解説標記を作成し、展示理解を深め満足度を高めていただけるように継続して整備してまいります。今年度においては、再現建造物の漬物庫、味噌醤油蔵の説明看板についても多言語化し、LED内蔵照明のものに更新いたします。

3 展示建造物の維持管理並びに館内の環境整備を図る

博物館網走監獄開館から36年目となり初期に整備された展示建造物及び博物館施設に老朽化が散見しているため改修に取組み、固定資産の延命化を進めます。社会教育施設として求められる博物館機能充実には既存施設の利用、一部改修によりコスト削減に配慮して対応を進めてまいります。

施設防災は来館者の安全確保と重要文化財建造物保全を目的に、職員の防災意識・対応技術向上の取組みを進めます。

館内景観整備は引き続き宿根草植栽を中心に、敷地内樹木や緑地部分の効率的な管理対策を検討します。

(1)再現展示建造物の維持

- ①浴場屋根葺替え 屋根部材の傷みが散見しており、金属瓦への葺替え、屋根下地腐朽個所の修理補強を行います。
- ②高見張り脚部補強 再現構築物高見張り1基の木製脚部腐朽個所の部材更新、建築金物による補強を行いません。
- ③レンガ門塀補修 再現構築物レンガ正門のレンガ剥離や亀裂の修復、登録有形文化財・旧網走監獄通用門笠石の再建を行いません。

(2)博物館機能の拡充

- ①まなびや館改修 講演、体験講座、調理実習等を行なっているまなびや館の機能充実を進めます。トイレは車椅子利用が可能なユニバーサル化を行い、併せて正面入口自動ドア設置、ホール入口遮音ドア設置等の改修工事を行います。
- ②資料保管庫設置 修復工房(復原裁判所棟 1階)を改修し調湿機能を持つ資料保管庫22.8㎡を設置します。文書・図面等の紙資料収蔵量が増えたこと、また特別展・研究目的等で貴重な資料を借用する機会もあることから保管機能の高い収蔵室を設置します。
- ③給電用高圧配線更新 安全性確保から更新を求められている高圧受電設備の一部及び給電配線を更新、改修します。
- ④総合管理棟受付部分改修基本設計 入場口のオープンカウンター化を目的とする管理棟受付部分増床改築計画の基本設計を進めます。

(3)館内設備安全対策

復原裁判所棟、重要文化財建造物:教誨堂は入口コンクリート階段及びスロープ部分にゴムチップマットを敷設し安全対策を施工します。

(4)防災対策

- ・消火栓水落としバルブ更新 敷地内消火栓5ヶ所の水落としバルブが機能不全となったため改修、更新します。
- ・防訓練の実施 職員の防災意識を高め不測の事態に備えると共に地域消防署、消防団との連携を進めるため消防訓練を年2回実施します。

・防災に係る施設整備計画への取組み 緊急自動車進入に対応するゲートや敷地内道路の改修計画に取り組みます。

(5)環境整備、館内の景観整備

・宿根草花壇整備 宿根草による景観整備に継続して取り組みます。地域フラワーマスター事業やボランティアとの連携を企画します。

・敷地内樹木、緑地管理 文化財建造物、展示建造物の維持に支障となる樹木の枝払い、伐採を進めます。効率よい緑地管理のため乗用型草刈機を導入します。

・冬期除雪対策 駐車場除雪は引き続き委託作業とし、館内園路の確保や重要文化財建造物維持を目的とする建物周囲除雪作業の効率化を図るため、20馬力級除雪機1台を更新します。

4 経営の安定を図るため入館者の確保と収益事業の強化

1. 入館者の確保

平成 29 年度博物館網走監獄入館者数は前年比 15% 台の増加、247,000 人程度が見込まれています。これは 28 年秋の道東への台風複数直撃の影響による大幅な観光客減少から回復が進んだこと、保存する旧網走刑務所建造物が 28 年 2 月に重要文化財指定を受けたことによる博物館への取材増加などメディア露出増から施設知名度、興味度上昇に起因するものと考察しています。しかしながら依然、交通インフラ拡充も遅々として進まず宿泊数も伸び悩んでいる当地の状況から鑑み、現状ではこれ以上の入館者数増加は困難であり如何に維持を続けていくかが新年度以降の大きな課題となります。

新年度入館者確保対策は先ず好調な個人型入館者を維持するためインターネット、SNS を活用する情報発信、メディア露出につながるイベント開催や話題づくりなどに取組みます。

政府の海外観光客誘致政策に連動し、当館においても増加傾向の著しい海外個人型観光客(FIT) 確保を主題として受け入れ態勢の細かな整備、行政や地域観光団体と連携しメディア受入れ事業など海外向け情報発信対策を進めます。

閑散期団体旅行商品受入れ、博物館の教育旅行利用促進を目的とする旅行代理店への渉外活動や旅行情報誌への広告出稿は、入館管理 POS を活用し利用状況を把握分析により効率的に対処します。

入館者確保策として次の事業を進めてまいります。

- (1) 平成 29 年度の入館状況を維持することを目標とし、新年度の有料入館者の目標を 25 万人、入館料収入を 225 百万円(29 年度見込み比 2.3% 増)とします。
- (2) 入館管理 POS による入館状況把握、分析に基づいた入館者確保事業への取組みを進めると共に、窓口の決済処理をスムーズに進めるため釣銭機の追加導入(新規導入品を個人窓口に更新設置、既存機を団体窓口、収益事業売店に転用)するほか昨年秋に導入し好評なクレジット・電子マネー対応を割引商品に対応させるなど機能充実を進めます。
- (3) 海外誘致対策として次の事業をすすめてまいります。
 - ① 館内表示の改修時には多言語表示、国際共通サインへの切り替えを進めます。東アジア域からの入館者数が増加する春節期間に、園地内に雪像や流水、雪のすべり台を設置し冬遊びを体験できるコーナーを造成します。
 - ② 網走市、地域連携団体等の実施する海外観光客誘致事業に協力し、海外メディアや旅行代理店、航空会社受入れへの協力や、海外キャンペーンへの参加などの対応を進めます。
- (4) 入館者誘致を目的とする情報発信手段として公式ホームページの情報更新頻度を高めるなどインターネット・SNS の活用を推進します。広告掲載は販売数の多い全国販売型旅行雑誌に集中し、広報予算の効果的支出を進めます。
- (5) 教育旅行、閑散期団体型観光客誘致を目的とした旅行代理店への渉外活動は、地域連携の観光誘致キャンペーンに参加協力するほか送客先訪問を実施します。

(6)テレビ・雑誌等の取材に丁寧に対応し、映画、ドラマ、PV 撮影等も積極的に受け入れ、漫画や文芸作品の制作協力を行うことによりマスコミへの露出頻度を高めます。網走監獄が登場するマンガ「ゴールデンカムイ」が今春からアニメ放送開始されることに連動した道内観光団体や市内青年団体の行なう関連イベントに協力するなど、様々な手段で施設への興味を高めてもらう努力を行ないます。

2. 収益事業の強化

当財団の公益事業会計、法人会計を健全に運営継続させるための収入補てんを行うため収益事業会計の運営は細かな対策を積み重ねて増収対策を進めます。食堂事業は運営方法再検討や新メニュー開発など利用増加対策を行ないます。物販事業はミュージアムショップでの軽飲食メニュー充実や取扱商品の再検討、クレジット決済導入など売り上げ増加対策に継続して取り組みます。

- (1) 物販、食堂、賃貸料収入等による収益事業会計の収入目標を 59,391 千円(前年度予算費 1.7%増)とします。
- (2) 物販事業は、好調な軽飲食コーナーのメニュー充実、取扱商品の再検討を進めるほか、販売管理POSシステムにつり銭機の追加、電子マネークレジット決済の導入を進めます。
- (3) 食堂事業は、地域の方の利用促進を目的とする広報対策や新メニュー開発、営業期間、営業時間の延長などを進め利用者増加を図ります。
- (4) 物産館賃貸事業は、テナント入居者との連携を密にし、当財団が所有する登録商標『網走監獄』を使用する新しい商品開発などを相互が健全な運営を行える 環境整備を進めます。